

厚板市場落ち着き「ぼちぼち」感

流通販価は横ばいムード

ステンレス厚板市場は、この4-6月期は「まあまあ」「ぼちぼち」といった雰囲気推移している。荷動きは製業や一部半導体関係向けがひと段落してか、昨年の同時期よりは停滞気味で、1-3月期よりも各流通が季節要因などで減っているようだ。ただ、関東の有力流通役員は「食品設備絡みの製向けは多い。物は言いようだが、悪くはない」と感触を語る。全国ステンレス厚板シャリング工業会の統計によると、4月の販売は前月比微減、前年同月比4・9%減の1万4344トだった。

水処理設備向けは安定的で、好調な半導体関係メーカーを最終顧客とする商社流通は悪くない業績推移となっている。ただ、ポリウムが多い各種発電向けのニーズは少なく、ある大手流通は「化学工場も含めてうんともすんともいわない感覚」とする。在庫水準は決して低くない。4月統計では、月末在庫が前月比1644ト増の3万6032トとなり、ここ2年間で最高レベルとなっている。

関東のニッケル系厚板の相場はトン49万円前後。鋼板メーカーは原料価格連動からすれば引き続き値上げ基調で、今後の設備改善などのため利幅を狭めたいという問屋の考えもある。ただ、需要や市中在庫量の現状から、これが今後浸透していくかには懐疑的な見方がある。商社流通は販価を崩さずに、踏ん張っていきたいところだ。

(太)

中国向け銅棒圧延機2基受注

プライメタルズは、中国の寧波金田銅業向けの銅棒圧延機「SCR7000」2基を米国サウスワイヤ（ジョージア州キャロルトン）から受注した。今回プライメタルズは、SCR7000用の圧延機とコイラー（巻取機）のエンジニアリング、製作、試運転を担当する。

この銅棒圧延機は、地域市場への新規拡大のために2019年に納入されるもので、1基目は浙江省杭州市に、2基目は広東省広州市に設置される予定。1基目は19年の夏、2基目は20年初旬に生産開始の予定だ。この受注により、プライメタルズが寧波金田銅業に納入する銅棒圧延機は総計4基となり、年間生産能力は合計で約100万トに増加する。

ビル建設用電線とケーブル市場向けのタフピッチ銅の生産に使用される同圧延機は、独立駆動の圧延スタンドを装備したモルガン・ノーツイストミル13基から

なり、断面8200ミリの製造銅を圧延して、直径8・9・5、12・7、16、18、25ミリの棒材を生産。重量2・4トのコイルを毎時48ト生産し、各圧延機の年産能力は約31万5千トとなっている。

300トクラスの複合蓄圧器設置

北海道の水素ステーションに納入

日鉄住金パイプライン&エンジニアリング（日鉄住金P&E）は、米国FIBAテクノロジーズ製の「TYPE2複合蓄圧器」を、商用水素ステーションで一般的に採用されている300トクラスとしては日本で初めて、日鉄住金P&Eが共同事業者として参画している環境省実証事業設備「しかおい水素ファーム」（北海道河東郡鹿追町、帯広市）に設置した。

FIBA製「TYPE2複合蓄圧器」は、日本国内では、従来採用されている「TYPE1蓄圧器」「TYPE3複合蓄圧器」より安価な蓄圧器であり、米国の水素ステーションでは一般的に採用されている。

日鉄住金P&Eは、水素ステーションの技術提携先である米国エアプロダクツの協力を得て、FIBA製「TYPE2複合蓄圧器」国内導入に必要な許認可を取得し、今回の設置となった。

西日本金網協会 10月1日に事務所を移転

西日本金網協会

（大阪）西日本金網協会（奥上恵一郎理事長||奥上金網製作所）は、10月に事務所を移転する。これまでは、大阪特殊釘工業協同組合（岩本克己理事長||金剛特殊釘製作所）が事務所として借りていた共通ビル（大阪市中央区）の1室に間借りしていたが、同組合が6月20日に開催される総会をもって解散することから、猶予期間となる9月末までに退去しなければならなくなつたもの。移転先について、奥上理事長は「同じく間借りしていた西部線材製品卸商業組合（片山隆之理事長||片山鉄建）と共同で、同じビルの6階の1室を借りる計画を現在進めている」としている。

助成研究成果表彰者を決定

鉄鋼環境基金（鈴木英夫理事長||新日鉄住金常務執行役員）は、第9回環境助成研究成果表彰者を決定し、理事長賞は北海道大学大学院工学研究の坪内直人准教授。技術委員長賞には同大学院の夏井俊悟助教が選ばれ、鉄鋼技術賞は大阪大学大学院工学研究科の桑原泰隆助教が受賞した。受賞者には賞状と記念品を贈呈し、表彰式・受賞記念講演会も10月ごろに実施する予定。今年応募資格のある助成研究者70人のうち、10人（14%）から応募があった。